

ごあいさつ

6月の50周年Ⅰ、9月の50周年Ⅱに引き続き、本日は記念すべき50周年記念演奏会の最終回となります。最初のステージのブリトゥン作曲『キャロルの祭典』は42年前から歌い継いでいる小田原少年少女合唱隊の大切なレパートリーで、私たちが育ててくれた曲でもあります。本日で24回目の演奏となります。後半のチャイコフスキー作曲『くるみ割り人形』を初めて歌ったのは45年前でした。クララ、王子などは今回で12代目になります。この2ステージはハープの篠崎和子先生にご一緒していただきます。篠崎先生には6月9日の東京オペラシティコンサートホールでの50周年記念演奏会Ⅰでもトウキョウ・モーツァルトプレーヤーズのメンバーとして演奏していただきました。

6月のパートⅠでは、リユーベック歌劇場音楽監督の沼尻竜典先生に指揮を、トウキョウ・モーツァルトプレーヤーズに協演をお願いし、ほぼ満席のお客様から盛大な拍手を頂き、感激の中で無事、終了致しました。9月のパートⅡでは、15周年から30周年までご指導・ご協演いただいた、世界的な伴奏ピアニストのヘルムート・ドイチュ先生をお迎えしました。台風の被害が心配された中、秦野市文化会館で奇跡的に開催することができ、喜びが何倍にもなりました。

50周年記念演奏会のほかに、10月には「軽井沢国際合唱フェスティバル」でマルベリー・チェンバークワイアが招待演奏もさせて頂きました。世界トップクラスのアメリカの合唱団ソルトレイク・ヴォーカルアーティストツや、全日本合唱コンクールで常に1位を受賞している東京都の Combinir di Corista などの合唱団とご一緒に充実した3日間を過ごしました。「拍手は人を育てます」という作曲家で主催者の松下耕先生のお言葉のように、歌い終わるたびに盛大な拍手を頂き、コンクールとは違った貴重な経験をさせて頂きました。

今年は以上のように、全て違う曲目による3回の50周年記念演奏会と軽井沢国際合唱フェスティバル参加という1年間のため、全国コンクールにはシード権を頂いていながら合唱隊、マルベリー・クワイア、マルベリー・チェンバークワイアの3団体とも不参加でした。1月から現在まで私が闘病中ということもあり、新聞のコンクール関連の記事をお読みになった方々から「今年は全国に行かれなかったの？」とか「病気の具合が悪いの？」などとお尋ね頂くことがありますので、余談ながら付記致しました。

50年間の私たちの活動を支えて下さった小田原市、後援会ほか多くの皆様のご支援に心から御礼申し上げますとともに、今後の51年目の活動に対しても、今までに増してのお力添えをお願い申し上げます。

賛助出演の Chor Blacks、6歳から高校生までの現役、卒業生の合唱団、OB有志、総勢85名による50周年記念演奏会Ⅲの喜びの歌声をどうぞお聴きください。

小田原少年少女合唱隊 代表・指揮 桑原妙子